

丸亀で会いましょう

弁護士として まちづくりに貢献したい

秋月さんは、大学は、公務員の父親の影響もあり法学部で学び、修士課程では行政学を専攻。まちづくりや協働・NPOなどの研究者を目指していた。地域での市民活動に関わる中で、弁護士の専門知識とライセンスの必要性を痛感し、法科大学院に進学。司法試験に合格後、修習期間を丸亀で過ごした。平成20年12月香川県弁護士会に登録。丸亀初の女性弁護士となった。

都市部では女性弁護士が増えつつあるが、香川県ではまだまだ男性が多い職業の一つ。「よく事務員さんに間違えられます」と若々しく微笑む襟もとには、弁護士バッジがキラリと光る。

子どもの頃は、TVドラマの弁護士が「異議あり!」というシーンをカッコイイと思っていたが、実際の仕事は地道なもの。しかし、問題を抱え悩み困り果てて来られた依頼者が、話を聞いているうちにホッとした表情に変わる時、微力ながら役に立てていることが嬉しい。依頼者がDV被害女性などの場合は、同性であるが故に安心して心を開いて相談してくれるそうだ。

市の法律相談員や審議会委員なども務めている。「様々な経験を積んで、仕事を通じて信頼されるように、もっともっと研鑽を積みたい」きっぱりと語る秋月さんの今後の活躍がとても楽しみだ。

香川県弁護士会の会員は、平成21年7月1日現在120名。内訳は、高松102名、丸亀18名（三豊・観音寺を含む）。うち女性会員11名（高松10名、丸亀1名）。



秋月智美さん

Information

女性のためのインターネットラジオ
「ラジオパープル」 開局! (毎週水曜日更新)
<http://radiopurple.org>

「ラジオパープル」は、女性に対する暴力根絶に向けた「パープルリボン・プロジェクト」の一環として開局されました。

インターネットを通して、「無料で、女性にとって必要不可欠な情報にアクセスできる」場の保障に取り組み、女性自身のエンパワーメントを図っています。

主催：NPO法人全国女性シェルターネット
 後援：内閣府、厚生労働省ほか



「愛する、愛される～デートDVをなくす・若者のためのレッスン7～」
 山口のり子著〈梨の木舎〉

図書・DVDの紹介



アウェアデートDV防止教育・教材DVD
「デートDV～相手を尊重する関係をつくる～」(約30分)
 上記以外にも男女共同参画関連の図書・絵本・DVDは「男女共同参画推進ゆめ」の部屋にあります。ご覧になりたい方は下記へご連絡ください。

チャレンジサイトをご活用ください
<http://www.gender.go.jp/e-challenge/>

内閣府では、各種支援機関に関する情報や全国各地で活躍されている女性・団体を紹介する「チャレンジ・サイト」を開設しています。

働きたい女性、社会に貢献したい女性、暮しのクオリティ・アップをめざす女性を応援しています。



編集後記

女性消防士の中河原さん、男性保育士の吉田さんは、夢を実現させて子どもの頃からの憧れの職業について(P3写真掲載)。苦手なことは同僚に助けをもらい、得意なことで貢献しながら活躍している。テーマ「自分らしさが気持ちいい!」小学4年生の授業をみせていただいた。輝く瞳で語る二人に、みんなの目も輝く。子ども達が、自信をもって笑顔で夢や目標を語る明日でありたい。(Y)

ゆめネットワーク情報紙



第22号

城坤小学校



平成21年度
男女共同参画モデル校



岡田小学校

☆あなたの大切な人を大切に☆

8/19



丸亀市男女共同参画職員研修会にて

山口のり子さん（アウェア代表）より、DV・デートDVの実態と対応の仕方について学びました。

デートDVとは、高校生や大学生など若いカップルの間での暴力のことです。恋人の行動を自分の思い通りに指図したり、自分の考えや価値観を一方的に押しつけたりし、身体的・精神的・性的暴力行為をとまないます。しかし、被害当事者は愛されているからと容認し、逃げ出せなくなり、深い傷を負うことが多いのです。そのような、人格や意見を尊重しない態度を愛情と勘違いしてはいけません。

こうした力と支配の関係・暴力容認・男女の力の格差などの間違った価値観は、社会が生み出しています。そのことに気づき、大人も子どもも、「お互いを大切に生きていく」とはどういうことなのかを、日頃から話し合ってみませんか。

【感想】

- ・「DV加害者は、自分こそが被害者だと思っている」というのは、夫婦間のみならず、子供同士や親子といった関係に置き換えてみると、すごく気づかされ、反省させられる。既存の概念を「学び落とし」新たに「学びなおし」しないといけない。
- ・子どもが教育の中で対等・平等・尊重という価値観を学んでいくことが大切で、それがDV防止につながる。社会の意識を変えていくことが必要だ。
- ・若い人たちが好んで聴く歌詞の中に「ジェンダーバイアス」的な一節がある。知らず知らずのうちにDVにつながるようなすり込みになっていると思う。
- ・携帯電話での事件も増えている。マスコミなどの一方的な情報を鵜呑みにしないこと、情報の送り手に潜む意図を考える教育ができればと思った。
- ・県内でDV加害者プログラムやデートDV防止プログラムが実施できたらいい。
- ・チェックリストで、自分も被害者にも加害者にもなりうるし、ジェンダー・バイアスが自分にも根付いていることに気づかされた。